



第56回

世界文化遺産に佐渡島の金山

※2024年7月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

1 / 3

インド・ニューデリーで開かれた国連教育科学文化機関（ユネス

出身者の強制労働の現場だった」として撤回を求めた。

コ)の世界遺産委員会は7月27日、「佐渡島の金山」（新潟県）を世界文化遺産に登録することを決めた。当初、歴史的経緯から韓国側が猛反発する一方、安倍晋三元首相は登録を強行に主張。政権基盤が弱い岸田文雄首相にとって、最大限に神経を使う「安倍案件」の一つだった。

岸田首相は当初、登録すべきか否かを迷っていた。当時の文在寅ウンジェイン大統領との間で日韓関係は「戦後最悪」と言われるまでに悪化しており、新たな火種になる可能性があったからだ。世界遺産委の指針は推薦前に「当事者間の対話」を促しており、韓国側の理解を得ることが容易ではないとの見方も官邸内にあった。

「（韓国に）歴史戦を挑まれてる以上避けることはできません」安倍氏は2022年1月、自らのフェイスブックにそう書き込んだ。佐渡島の金山を巡っては、政府の文科審議会が21年12月、世界文化遺産の推薦候補として選定したが、韓国側は「かつて朝鮮半島

しかし、自民党保守派は登録をためらう岸田首相を「弱腰外交だ」と突き上げた。岸田政権の発足当初から影響力を見せてきた安倍氏は「論戦を避けて登録を申請しないのは間違っている」と批判。高市早苗政調会長（当時）は22年1

月の衆院本会議で「必ず推薦すべきだ」と迫った。

首相には元々、世界遺産問題で韓国と厳しいやりとりをした苦い記憶がある。15年に登録された、長崎市の端島はししま（通称・軍艦島）などの「明治日本の産業革命遺産」を巡り、韓国側は「強制労働があった」と同様の主張を展開した。

岸田首相は当時、第1次安倍政権の外相として韓国側との交渉を担当。最終的には日韓外相会談を経て実質的な合意を取り付けたが、両国の世論で反発が起きるなど、歴史認識が関わる問題の難しさを痛感していた。

しかし、22年夏の参院選に向け、最大派閥の安倍派を束ねる安倍氏との関係は無視できなかった。岸田首相は最終的に政権安定を重視し、安倍氏に配慮する形で推薦を決断。政府は同2月、ユネスコに佐渡の金山を世界文化遺産として推薦した。安倍氏は「首相の判断を支持する。冷静に正しい判断をされた」との談話を発表した。

今回、佐渡島の金山が韓国の賛成も得て登録できたことは、22年5月に就任した保守派の尹錫悦ユンソンニョル大統領との間で岸田首相が築いた個人的な信頼関係も大きいようだ。

岸田首相は23年3月、就任後初めて韓国を訪問し、尹氏とソウルで会談。首脳同士が相互往来する「シャトル外交」の再開に合意し、その約2カ月後に実施された。

韓国政府は同月に両国で懸案だった徴用工問題に関する解決策も公表。尹氏が国内の批判にも左右されず決断を実行する姿に、首相は周辺に「大変な中、関係改善に向けて取り組んでくれる」と信頼を口にしていった。

日本政府は登録決定に関連し、朝鮮半島出身の労働者を「誠実に記憶にとどめる」とした上で、「全ての労働者の過酷な労働環境を説明し、労苦を記憶にとどめる」ための新たな展示物の設置などを世界遺産委で表明した。

外務省幹部は「韓国側には『協力案件として進められないか』と

交渉してきた」と明かし、「韓国も冷静に『やってみよう』という姿勢を示してくれた」と話す。

その際、重視したのが政治色を抑制した「実務的な対話」（外務省幹部）だ。

首脳レベルを前面に出さず、低支持率にあえぐ岸田、尹氏へ批判の矛先が直接向くことを避けようとした狙いが双方にあったとみられる。岸田氏と尹氏は7月10日、米ワシントンで会談したが、その際も世界遺産の問題は話題に上らなかった。

交渉の経緯を知る外務省の関係者は「日韓関係の改善を進めていたことが、世界遺産登録を後押ししたのは間違いない」と手応えを語った。